

第29回 JNA ジェルネイル技能検定試験受験申込者各位

第29回 JNA ジェルネイル技能検定試験

トレーニングハンド規定のお知らせ

要項でもご案内の通り、JNA では、JNA ジェルネイル技能検定試験における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、受験生、モデル、試験官など、試験に関わる全ての方の安全面を最優先に考慮して、12月2日（土）と12月3日（日）に開催の『初級第2課題試験、中級第2課題試験、上級試験』につきまして、これまでの「モデル同伴」から「トレーニングハンドの使用」に変更いたしました。トレーニングハンドを忘れた場合やモデルを同伴された場合は受験できません。

※初級第1課題、中級第1課題につきましては、従来どおりモデルへの施術による試験となります。

第1課題試験の審査終了後、モデルの方には手指消毒を行った後ご退場いただき、第2課題はトレーニングハンドを使って受験いただきます。

※感染症対策の特別措置となります。第29回の適用とし、今後の社会情勢を踏まえ第30回以降の実施についても事態収束まで同様の対応を検討しています。

※使用するトレーニングハンドは受験生ご自身でご準備いただきます。

初級第2課題試験、中級第2課題試験、上級試験の受験生は、以下の【トレーニングハンド規定】をご確認頂き、試験に臨んでいただきますようお願いいたします。

【第29回 JNA ジェルネイル技能検定試験トレーニングハンド規定】

第29回 JNA ジェルネイル技能検定試験初級第2課題、中級第2課題、上級課題はトレーニングハンドのみの受験とします。モデル同伴での受験は出来ません。

1. 1人2個、下記の条件のトレーニングハンドいずれかをワンセットで使用する。

①右手用、左手用をそれぞれ1個ずつ ②右手用を2個 ③左手用を2個

「右手」「左手」が分かるようにトレーニングハンドの手首（手の甲側）の位置に「右手」「左手」と記載した品名ラベルを貼付するか、または黒油性マジック（黒ボールペン、水性マジックは不可）で事前に記入すること。もし、試験中に品名ラベルがはがれた場合は貼り直しをすること。事前審査で適切な状態かを確認するため、試験日までに準備を完了しておくこと。試験会場において、トレーニングハンド及びチップに手を加えないこと。ただし、チッ

ブが外れた場合は実技試験内（初級・中級は第2課題実技試験）に装着すること。

2. トレーニングハンドは、キューティクル周りに、審査に支障をきたすような著しい汚れ、傷などがついていない清潔なものを使用すること。
3. 既製品にあらかじめ加工されているもの以外に、自分で文字や線、目盛などを記入したトレーニングハンドは使用不可。
4. トレーニングハンドを固定するためのアームや吸盤などは使用不可。
5. 手首部分に「右手」「左手」の表記やラベル貼付をするため、手首部分があるものを使用すること。指の部分が着脱可能なトレーニングハンドは使用不可。
6. トレーニングハンドは試験開始時には擦式清拭消毒をすること。トレーニングハンドに装着できるのは、チップ、フォーム、「右手」、「左手」記載の)品名ラベルのみとする。
 - ① トレーニングハンドの指部分が固い場合、指間を広げる指を下向きにするため、相応の力が必要であるが、出来る限り人の手と同様に丁寧に扱うこと。
 - ② トレーニングハンドの指間が広げにくい、広げても元に戻りやすい場合、指間への挟み込みをCカーブ用スティックのみ使用可能とする。
7. 使用するチップはナチュラルのみとし、10本すべてに装着してくること。チップの装着方法の指定はないが、試験中に外れないように装着すること。装着していたチップが試験会場に来る際に取れた場合は、実技試験時間内に付け直すこと。(初級、中級は第2課題の実技試験に行く。実技試験前に付け直すことは不可。事前審査の際はトレーニングハンドと共に外れたチップを並べておくこと。)試験中にチップが外れた場合は付け直し、審査開始時にチップが外れていることがない様にする。また、試験終了時にはすべての指を伸ばし、審査開始時にすべての指が伸びているようにすること。
8. 装着するチップは、モデルに施術する場合と同じように、フリーエッジを事前に初級・中級は10本ラウンドに、上級はイクステンション用に長さや形を整えておくこと。ただし、サンディングは試験時間内に行うこと。
9. サイズのあっていないチップを使用していないか、チップの装着状態が適切か事前に確認しておくこと。
10. テーブルセッティング及び試験中は、アームレスト、タオル、ペーパーの上で施術を行い、直置きしないこと。なお、初級試験においては、第1課題事前審査時にトレーニングハンドの状態の確認を行うため、第1課題試験中は机上の余白部分にタオルやペーパーを敷き、その上にトレーニングハンドを置いておくこと。